



Via Latina 22

2025 年 11 月 347 号

総本部よりのお知らせ－マリア会

内 容

喜ばしい出会いの月：東アフリカ地区への教会法上の視察訪問.....	1
ガーナ、ガルの Father Morin 中学校での校長職の譲渡式.....	3
奉獻生活の記念式典（2025 年 10 月 8 日－11 日）	4
ボルドーへの巡礼.....	5
福者シャミナードの人的・靈的パーソナリティ.....	5
2025 年－2026 年の国際名簿が間もなく届きます.....	8

喜ばしい出会いの月：東アフリカ地区への教会法上の視察訪問

3 か国、9 つの共同体、61 名の会員、その平均年齢は 30 台半ば、最も貧しい人々に奉仕する 8 つの活動。そして 2025 年 9 月 29 日から 2025 年 10 月 30 日にかけて行われた東アフリカ地区への総長評議員会の教会法上の視察訪問の間に、ケニア、マラウィそしてザンビアを横断して分かち合ってもらった数知れないほほ笑み、歌と出来事。この 1 か月の視察訪問では、地区の全てのマリアニスト共同体を訪問しました。総長評議員は殆んど全ての修道者と会い、面談して、その地域の共同体と祈りと食事を共にし、また学校、養成施設、社会福祉現場を訪れました。彼らはルサカ（ザンビア）で志願者たちと、リムル（ケニア）では修練者と会い、授業中のクラスを訪れ、生徒集会で語り、そして先生たち、管理者たち、信徒マリアニストと会いました。特記すべきは、10 月 12 日、ナイロビとモンバサで世界マリアニスト祈りの日の式典に参加したことでした。評議員はまた、マラウィの汚れなきマリア修

道会（FMI）の最初の共同体を訪問する喜びを持ってました。



マラウイのリロングウェにあるブラザー・マイケル・コ克蘭共同体とともに
左から右へ： Jérôme Balakiyema 士, Thomas Njari 士, Dickson Oganga 士, André-Joseph Fétis 神父, Emmanuel Mwakabanga 士, Peter Kapalu 士, Shadrack Malesi 士 and Godfrey Ssenyomo 士.

東アフリカでの滞在を通して、評議員会メンバーはこの地区が信仰、活力、そして希望をもつ活気ある地区だとわかりました。共同体は協力と寛大さで輝いています；修道者たちは自分たちの任務への深い献身と奉仕への喜びの精神を示しています。養成期間にある若者たちの存在－志願者、修練者、そして学生修道士－は、活力の明確なしるしとして、また将来への約束として輝いています。



3 人の IMANI マリアニストとともに シャミナードトレーニングセンターの卒業生で、現在同校の教師でもあります： Ruth Catherine (ハア・美容), André 神父, Redempta Syombua (ハア・美容), Jérôme 士, Pablo Rambaud 神父, Peres Jelimo (ミシン編み) and Dennis Bautista 士.

マリア会の全ての共同体と同様に、この地区の修道者たちは自分たちの担うべき課題に直面していますが、彼らは勇気と信仰を持ってそれらに向き合っています。地区の若さ、一致、そして情熱は、世界マリアニスト家族への力強い贈り物です。修道者たちはそれぞれの文化と国々を横断して協力し合いながら成長を続けているので、彼らは希望、奉仕、そして喜び

に根ざしたマリアニスト生活の生きいきとした証しの姿を見せています。

ガーナ、ガルの Father Morin 中学校での校長職の譲渡式

2025 年 10 月 7 日、火曜日、ロザリオの聖母の祝日に、ガーナのナブロンゴ・ボルガタンガ司教区にあるガルの Father Morin 中学校では、退任の校長とトーゴ地区マリア会に委託される新しい執行部の間で、公的な譲渡式が行われました。

熱意と期待に溢れたこの機会に、幾人かの教会関係者と教育関係者が出席しました。出席者は次のような人たちです：司教区 Alfred Agyenta 司教；トーゴ マリアニスト地区長 Jonas Kpatcha 神父、そして彼の教育部長 David Bokoma 士；ボルガから来た司教区のカトリック教育の責任者チームの代表。そしてまたガルを拠点とする、「希望の聖母」マリアニスト共同体のメンバーも列席しました。譲渡式は小教区司祭と退任の校長、Richard Abingya 神父によって執り行われました。Father Morin 中学校の教員、職員の出席も注目されました。



生徒たちとの家族写真 前景: Jonas Kpatcha 神父, Alfred Agyenta 司教と Frédéric Bini 士.

司教と地区長の挨拶が式典を祝いました。当地の裁治権者 Alfred Agyenta 司教はその挨拶で、退任の校長と全ての先生方に対して、長年に渡り Father Morin 中学校の若者への人間的、知的、そして道徳的育成への彼らの献身について深い感謝を表明しました。彼はまた、カトリック教育は兄弟的協力の精神で実践されることが求められる福音宣教と人間の尊厳や能力の向上という使命にとどまることを思い起こさせながら、彼の要望に前向きに応じたマリアニスト修道者にも感謝しました。

トーゴのマリアニスト地区長、Jonas Kpatcha 神父はそのスピーチで、創立者、福者ギヨーム・ヨゼフ・シャミナードの精神に忠実に、この教育の任務を継続するために地区は用意

ができていること、および決意を再確認しました。

式典で、この機会に集まった生徒と先生たちに新しい指導チームが公に紹介されました。今後、Father Morin 中学校の運営はガルの「希望の聖母」共同体のマリアニスト修道者に委ねられます。この共同体のメンバーは：新しい校長 Frédéric Bini (TO)、Patrice Agao (TO)、そして Philip Adoka(EA)で、彼らは 2025 年 1 月からガーナに住んでいました。



先生たちとの家族写真 手前中央、Alfred Agyenta 司教 と Frédéric Bini 士。
前列で、左から右へ: David Bokoma 士, Philip Adoka 士, and Fr. Jonas Kpatcha 神父。

司教区とトーゴ地区マリア会両方にとって、この譲渡式は若者への奉仕と人間の全人形成へ双方の努力を一体化することで、福音宣教の実りある協力の象徴となっています。両親たちと教員たちの代表の挨拶は、Father Morin 中学校のこの新しい段階になされた信頼と期待を反映していました。

奉獻生活の記念式典（2025 年 10 月 8 日～11 日）

8 月 8 日から 11 日まで、奉獻生活の記念式典がローマで開催されました。16,000 人に上る男女修道者と在俗会のメンバーが世界中から参加しに集まりました。この集まりには、AM、FMI、SM の小さなマリアニストの代表も参加していました。

この大規模な式典の期間中に使用された多数の資料は教皇庁奉獻生活省の[サイト](#)で数か国語で読むことが出来ます。これら資料は私たちの修道生活を深めるのに大変役に立ちます。これらの中で特に次の項目が注目されます：

- [教皇レオ 14 世の説教](#)（2025 年 10 月 8 日）は、質素さを生きる私たちの生活における神の重要さに対して私たちが証しをするよう招いています。
- [教皇レオ 14 世の参加者たちへのメッセージ](#)（2025 年 10 月 10 日）は、私たちが一致して、《シノダリティ共に歩む教会のエキスパート》に成るよう励ましています。
- [奉獻生活を送る男女修道者たちへの参加者からのメッセージ](#)（2025 年 10 月 11 日）（ペ

ージ4)と私たちの奉獻更新のための素晴らしい祈り(ページ8)、これは個人的、あるいは共同体的更新の機会に用いるのにふさわしいものです。

ボルドーへの巡礼

9月24日から26日にかけて、総本部共同体とVia Latina 22の職員たちはボルドーへ巡礼に出掛けました。この巡礼はシャミナード神父列福の25周年を祝うものでした。ボルドー市について大変詳しい会員の説明のお陰で、彼らは一緒に私たちの創立者の生涯で最も意味深い場所を訪れ、自分たちの霊性を深める機会を得ました。彼らはまた創立者の部屋で、マドレーヌ聖堂で、そしてボルドーのシャルトルーズ墓地の彼の墓で、ミサの捧げ、祈ることが出来ました。



ボルドーのラ・マドレーヌ内にある福者シャミナード神父の肖像画の前にある
Via Latina 22の総本部共同体とスタッフ。

彼らは皆、一緒に過ごした時間を大変幸せに思い、感謝して戻ってきました。特に、職員の方々は、自分たちが以前に何度も聞いていた場所を身近に感じる事が出来ました。この巡礼で私たちが受けたマドレーヌ共同体の温かい歓迎と助けに特に感謝致します。

福者シャミナード神父の人的・霊的パーソナリティ

2025年～2026年の期間に、マリアニスト家族は2000年9月3日、バチカンの聖ペトロ広場での教皇聖ヨハネ・パウロ2世によるシャミナード神父の列福25周年を祝っています。この期間に、私たちは福者シャミナード神父の人的・霊的パーソナリティの詳しい研究にこのVL誌の「マリアニストの聖性」セクションを捧げるつもりです。私たちは彼のマリア信条、信仰や祈りについての考え方、宣教プロジェクトなどについては多く知っていますが、しかし、シャミナード神父とはどんな人だったのでしょうか。人として、司祭としてのシャミナードはどんな人だったのでしょうか。何よりも、シャミナードは「神の人」でした；すなわち、新しい世代に福音を宣べ伝え、革命の嵐によって破壊されたフランス教会を再建

するために、自分の人生を神に捧げた司祭でした。

「神の人」という表現は、ジャン・バプティスト・ララン神父が 1871 年 11 月 14 日のボルドーのカルトウジオ墓地での創立者の墓標の祝別式の説教でシャミナード神父について述べた言葉です。というのは、聖パウロが弟子のテモテに勧めているように、シャミナード神父は、「神の人として、正義、敬虔、信仰、愛、忍耐、柔和を追い求め、信仰の闘いを立派に闘い抜いて、永遠の命を獲得した」からです。シャミナード神父の中には、信仰、マリアへの信心、使徒的熱意、宣教の熱意の諸徳が輝いていました；すなわち、諸徳が「泰然自若とした静けさ」で特徴づけられる彼のパーソナリティと完全に調和して生きていました。彼の人の質を三つ挙げるとすれば、「志操堅固」、「不屈の精神」、そして「親切」でした。

恐怖政治の時代に彼が英雄的勇気をもって示した根気強さと不屈の精神が、その時代の人々が彼のことを「信仰の証聖者」と呼ぶようになった理由なのです。後に、1800 年から 1820 年にかけて、彼は「疲れを知らない根気強さ」でその数多くの使徒的事業の創設を支えました。けれども、この力と決断力は堅固な精神から来るものではなく、智慧に満ちた人間的・霊的背景から湧き出るものでした。彼のビジネス上の取引関係を含むあらゆる事柄において、彼は節度と自己コントロール、そして驚くべき沈着さをもって行動しました。彼自身、しばしば繰り返していたように、「神の霊は非常に活発ですが、急ぎません。」ある事柄について決定しなければならないとき、彼はマドレーヌの聖堂に行き、ご聖体の前に跪きました；そして一旦、神のご意思を知ったと確信すると、なされた決定を彼が実行するのを止めさせることができるものは何もありませんでした。



1999 年 12 月 20 日、使徒宮殿(バチカン)で教皇聖ヨハネ・パウロ 2 世の立会いのもと、シャミナード神父による奇跡の布告 左から右へ: 列聖請願総代理, Enrique Torres 神父, SM; 総長, David Fleming 神父, SM; 総長, シスター Blanca Jamar, FMI.

シャミナードは明らかに相反する特性を調和させる術を知っていました: 優しさや父親の

慈しみと、とてもエネルギッシュな堅固さ；勇気や聖なる大胆さと最も誠実な謙虚さ；知恵と率直さ；厳格さと親切；その協力者に対する彼の魂のもつ思慮深さと胸襟を開いた態度。彼はその節度において抜きん出ていました：彼は食べ物において質素で、着るものと部屋については控え目でしたが、常に清潔で身だしなみを整えていました。

彼の話しぶりは幾分単調で、ゆっくり、というか、ぎこちなかったので、雄弁家としての素晴らしい才能には恵まれていなかったけれども、ボルドー市で彼はとても影響力のある司祭でした。彼は公の場で行動するのを好みませんでした、人々を導く素晴らしい指導者でした。彼は「その愛の魅力」で信者たちを魅了していた、と William Bel 神父は言っており、また、Demangeon 神父は、彼の善良さに満ちた心、そして親しみやすく人を温かく迎える性格の有する不変の平静さの故に、彼を「魂の魅了者」と呼んでいます。売春という社会悪に落ち込んだ若い女性たちを救おうとする彼の関心に見られるように、彼が、特に社会で最も身分の低い人々（使用人、下級の人々、貧困者、、、）や最も見捨てられた人々に対して示されていた親切心はそのことを示しています。

福者シャミナードは、ムシダンの「聖シャルル司祭会の規則」に学んだ満ち溢れる個人的献身に現れた、熱烈な内的生活と深い修道精神を有していました；ご聖体と聖マリア祭壇への訪問、使徒信条の朗唱、十字架の下、聖マリアの悲しみや苦しみと分かち難く結ばれていた、イエスの御心と主の受難への信心、聖ヨセフ、そして聖家族への信心。このヨセフへの信心が、聖ヨセフを自分の保護の聖人として望み、また堅信の日に自分の堅信名としてヨセフを加えた理由なのです。また、聖母マリアの愛する弟子、使徒聖ヨハネへの信心があり、他の信心として諸聖人と守護の天使の祝日がありました。

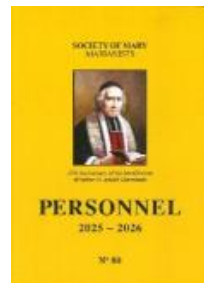
ギョーム・ヨゼフ・シャミナード神父は、神との変わらぬ一致と継続的な祈りの状態で生活していました。Eugene Canette 氏は次のように語っています；自分は「シャミナード神父がサンロレンゾの修練院からマドレーヌ聖堂に戻って来るとき、木曜日に、愛するシャミナード神父に同行することが喜びでした；シャミナード神父がロザリオや他の祈りを唱え続ける間、私は聖務日祷書を持っていました」と。

シャミナード神父の魂の内的美しさは彼の様々な容貌の有する魅力に反映されています。すでに述べた彼の顔立ちの容貌は、彼の優しい性格と外面の質素さによって強められた静かな美しさと尊敬すべき外見を有しており、彼に親しく接するすべての人々に尊敬と信頼を抱かせました。マリアニストの Joseph Fabriès 氏は、「シャミナード神父は感じの良い外見、好感のもてる容貌、変わらない温和さを持ち、恵みの影響を受けることが彼に心を開き、心を整えさせるというほどの優しい思いやりの持つ、優れていると同時にシンプルなマナーを有していました；私は完全に魅了されました。」と明言しています。

1835 年、74 才の時の彼の旅券は、彼がグレイヘアーで、身長は 168 センチだと示しています；彼の容貌は感じがよく、額は広くて鮮明で、グレイの眉で、目は明るいグレイ、平均的大きさの鼻と口、丸く少し上がった顎で、そして肌全体の印象は色白でした。

2025 年－2026 年の国際名簿が間もなく届きます

国際名簿の今年度版はすでに印刷され近日中に全行政単位の本部に送付されます。印刷コピーの到着時期は各地の郵便事情によりますが、私たちはこれら名簿が間もなく届くよう願っています。これら名簿が行政単位の本部に届いたら、総書記との間の通信で指定されている全ての共同体、活動場所、人物、そして組織に配布されなければなりません。



最近の総本部通信

- 訃報：20－22 号

総本部日程

- 11 月 24 日－12 月 24 日：総長評議員会がイタリー地区訪問
- 11 月 26－28 日：マリア会総長、アンドレ・ジョセフ・フェティス師、ローマにて総長連合会議に出席

メールアドレスの変更

新しい全ての e-mails は国際名簿 2025－2026 次の発行版（80 号）に載せられます。